様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 ３０ 日現在

機関番号：３２５２０
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ１３４４７

研究課題名（和文）語の具現化を巡る局所性の探索

研究課題名（英文）An Investigation on Realization Mechanisms of Exponent

研究代表者
依田　悠介（Yoda, Yusuke）

東洋学園大学・グローバル・コミュニケーション学部・准教授

研究者番号：００７４５６７２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、異音・補充形の出現に関する研究を、語種に関わる側面を中心として行なった。
本研究により、これまで、単一の循環節点が局所性を形成するとされてきたが、必ずしもそうでは無いことが指摘され、同時に、循環節点がさらに上位の循環節点から解釈を受ける際に、局所領域の定義が再定義されるべきであることを日本語の例からも示した。
また、本研究の成果が意味的な補充と考えられる異義語に関しても応用可能であることも同時に示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では日本語や英語に加えて複数の言語のデータを比較し、検証を行なっている。一見すると関連しない、個別の現象に見えるものを一般化し、理論として統一することで、言語一般に見られる現象を取り出し、日本語・英語以外の言語研究者との相互に利用価値のある理論的分析を提出できた。

研究成果の概要（英文）：This research investigated the realization mechanisms of Allomorphy and Suppletion. Those are two topics, which has not been studied yet. Especially, this research focused on lexical stratum as an instance of suppletion (Sino Japanese class vs. Native Japanese class).
This research (i) provides nobel data that two or more cyclic head may form single local domain for Vocabulary insertion and (ii) iff a cyclic node cannot be interpreted by itself, two or more cyclic head forms one domain via suspension of spell-out.
The current outcomes also provide an account for allosemy, which is similar phenomenon as Suppletion in the Semantic Side of Derivation.

研究分野：言語学

キーワード：言語学　形態論　理論言語学　分散形態論　*ABA　補充　異形態

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

９０年代までの形態論研究は (1) 自律的形態論、（２）自律的音韻論からの分析が多数を占める中で、分散形態論 (DISTRIBUTED MORPHOLOGY, Halle and Marantz (1993)) の出現により、統語論と形態論の融合が図られた。分散形態論では、これまで語が貯蔵されていると考えられてきたレキシコン (LEXICON) が素性のみを貯蔵するとされ、語の音形の決定は、統語論の出力を対象とすると仮定された。この仮定のもと、これまでは語彙的に異なるため、別々にレキシコンに記載されている、あるいは、音韻的操作によって出力されると考えられていた、異形態・補充形を統語的な側面から検討できることとなった。これにより、Embick (2010) による、異形態の研究や Bobaljik (2012) による比較級・最上級で出現する補充形の研究など、語の音形がどのような環境によって決定されるのかの研究が 2010 年代に行われるに至った。

2. 研究の目的

例えば、Bobaljik (2012) の研究では、原級 *Good* が比較級の主要部と局所的な関係を結び、*Good*→*be*(*tter*) を出現させるとし、局所的な 2 要素は語の具現化に影響することを明らかにしている。しかし、Bobaljik 自身の研究により、例えば、ラテン語の比較で出現する “bonus”(*good*)-“melior”(*better*)-“optimus”(*best*) のようなタイプの二重に語根 ($\sqrt{\text{ROOT}}$) の変化を生じさせる補充形については未解決であった。さらに、この局所性に関して、Embick (2010) 以来、局所的な関係を結ぶ 2 つの主要部が形態の選択に関連すると考えられてきたが、Bobaljik and Harley (2017) では、主要部と補部の 2 要素が関連し補充形を出現させるという主張もある。このような背景のもと、語の音形の決定に関わる要因がなんであるのか？という問いに答えることで、語の具現化に関わる分散形態論の根本的な問題の一つである局所性がどのようなものであるのかを明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

日本語や英語を対象とした分散形態論の研究に加えて、他言語の研究や音韻論の資料も検討した。また、これまでの研究成果の知見を深めるために、日本語学や国語学の資料を検討し、日本語の異形態・補充形の蒐集を試みた。また、日本では多くの研究が、日本語と英語を中心的として扱っていたが、言語の幅を広げ東アジアの言語やトルコ語・アステカ語などの資料を蒐集、補充形に関する議論を中心として現象を観察した。現象の観察に際して、国内外の研究者との意見交換の機会を持ち、コネチカット大学の Jonathan Bobaljik 教授、ペンシルバニア大学の David Embik 教授、ニューヨーク大学の Alec Marantz 教授に指導を仰いだ。加えて、ニューヨーク大学大関洋平氏（現・東京大学講師）とも議論の機会を得た。

4. 研究成果

研究に際して、日本語の異形態・補充形の蒐集を行なったが、これまでにほとんど注目されてこなかったトピックであり、データの採取には困難を極めた。その過程で音韻論や意味論での異音・異形態・異義語の扱いが本トピックの糸口となる可能性を発見した。特に、語種に関する問題や、名詞の数量表現で、類別詞がホスト名詞句と関連すること、さらには、類別詞と数詞の間にも語種の制限があることが判明した。また、異義語に関して研究を進めるにつれて、Marantz (2013) で指摘されてはいたが、その出現メカニズムについて、異形態・補充形に関する局所性と関わりがあることが判明した。よって、本研究では、上記 Bobaljik (2012) で未解決だった問題に対して、比較以外の現象、つまり語種や異義語の観点から分析することで、循環節点（CYCLIC NODE) が局所性を示すことを明らかにした。また、循環接点が上位循環節点と形態的な関連性を持つとき、つまり、上位循環節点が出現しない限り、下位循環節点の情報が充足されない場合に限って、書き出し（*spell-out*) が生じない

ことも明らかにした。

5.　主な発表論文

〔雑誌論文〕 (計 7 件)

(1) Yoda, Yusuke. to appear a. Subject Orientation as Absence of Phi-feature. In *Proceedings of Workshop on Altaic Form Linguistics 15*. pp. 未定

(2) Yoda, Yusuke. to appear b. Subject Orientation as a Result of Impoverishment. In *Investigations Linguisticae*. Vol. 42. pp. 未定

(3) Yoda, Yusuke. to appear c. On Vocabulary Insertion Phrasal or Phasal? In *Proceedings of WECOL 2019*. pp. 未定

(4) 依田 悠介. 印刷中. 「照応形の学習とパラメーターの設定：タイ語母語話者への調査より」. 『教育現場における日本語論文集』. pp. 未定

(5) Yoda, Yusuke.2019. Domain of Suppletion: From Japanese Numeral. In *Proceedings of WECOL 2018*. pp. 185-194.

(6) 依田 悠介. 2019. 「タイ語と日本語の名詞の見方」『タイ国日本研究シンポジウム JST 2018 報告書』. pp. 177-181.

(7) Yoda, Yusuke. 2017. ”Don’t Misunderstand Main and Sub-effects: Which is Cause and Which is Effect.” In *The Proceedings of Seoul International Conference on Generative Grammar 19*. pp. 341-354.

(8) Kobayashi, Ryoichiro and Yusuke Yoda. 2017. Neg in VP-coordination and Suspended Affixation in Japanese. *Proceedings of Workshop on Altaic Formal Linguistics 11*. pp. 177-187.

〔学会発表〕

(1) 依田　悠介. 2020. 照応形の学習可能性とパラメーターの設定：タイ語母語話者への調査より. 第 2 回「教育現場の日本語」.

(2) Yoda, Yusuke. 2019. On Vocabulary Insertion: Phrasal or Phasal?.
Western Conference on Linguistics 2019.

(3) Yoda, Yusuke. 2019. Subject Orientation as a Result of Absence of Phi-feature.
Workshop on Altaic Formal Linguistics 15.

(4) Yoda, Yusuke. 2019. Target of Vocabulary Insertion: Terminal vs. Phrasal
Current Topics in Asian Linguistics.

(5) Yoda, Yusuke. 2019. Against Semantic Pruning: TO Be or Not to Be: That is Question.
The 12th Workshop on Theoretical East Asian Linguistics.

(6) Yoda, Yusuke. 2019. Reflexives are result of Impoverishment.
Language and Asian Language.

(7) Yoda, Yusuke. 2018. Domain of Suppletion: From Japanese Numeral.
Western Conference on Linguistics 2018.

(8) 依田　悠介. 2018. タイ語と日本語の名詞の見方.
タイ国日本研究国際シンポジウム 2018.

(9) Yoda, Yusuke. 2018. Domain Suspension Approach toward Locality within Morphological Domain.
International Congress of Linguist 20.

(10) Yoda, Yusuke. 2018. Spanning Approach to Quantifier in Classifier Languages.
ESLJ International Spring Forum.

(11) Yoda, Yusuke. 2018. Don't Misunderstand Main and Sub-effects: Which is Cause and Which is Effect.
Seoul International Conference on Generative Grammar 18.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Yusuke Yoda	４．巻 24
２．論文標題 On Vocabulary Insertion Phrasal or Phasal?	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Proceedings of WECOL 2019	６．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Yusuke Yoda	４．巻 42
２．論文標題 Subject Orientation as a Result of Impoverishment	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Investigations Linguisticae	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Yusuke Yoda	４．巻 15
２．論文標題 Subject Orientation as Absence of Phi-Feature	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Proceedings of Workshop on Altaic Formal Linguistics	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 依田　悠介	４．巻 -
２．論文標題 照応形の学習可能性とパラメーターの設定：タイ語母語話者への調査より	５．発行年 2020年
３．雑誌名 教育現場の日本語	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 依田　悠介	4．巻 なし
2．論文標題 タイ語と日本語の名詞の見方-数の数え方から認識へ-	5．発行年 2019年
3．雑誌名 タイ国日本研究国際シンポジウム2018論文集	6．最初と最後の頁 177-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yusuke Yoda	4．巻 23
2．論文標題 Domain of suppletion: From Japanese Numeral	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Proceedings of WECOL 2018	6．最初と最後の頁 185-194
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yoda, Yusuke	4．巻 19
2．論文標題 Don't Misunderstand Main and Sub-effects: Which is Cause and Which is Effect	5．発行年 2017年
3．雑誌名 The Proceedings of Seoul International Conference on Generative Grammar	6．最初と最後の頁 341-354
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kobayashi, Ryoichiro and Yusuke Yoda	4．巻 11
2．論文標題 Neg in VP-coordination and Suspended Affixation in Japanese	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Proceedings of Workshop on Altaic Formal Linguistics	6．最初と最後の頁 177-187
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計11件（うち招待講演　0件／うち国際学会　11件）

1．発表者名 Yusuke Yoda
2．発表標題 Against Semantic Pruning: TO BE or NOT to BE, That is the Question
3．学会等名 The 12th International Workshop on Theoretical East Asian Linguistics 2019（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 Yusuke Yoda
2．発表標題 Subject Orientation as a Result of Absence of Phi-feature
3．学会等名 Workshop on Altaic Formal Linguistics 15（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 Yusuke Yoda
2．発表標題 On Vocabulary Insertion: Phrasal or Phasal?
3．学会等名 Western Conference on Linguistics 2019（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 依田　悠介
2．発表標題 照応形の学習可能性とパラメーターの設定：タイ語母語話者への調査より
3．学会等名 教育現場の日本語（国際学会）
4．発表年 2020年

１．発表者名 Yusuke Yoda
２．発表標題 Target of Vocabulary Insertion Terminal vs. Phrasal
３．学会等名 Current Topics in Asian Linguistics（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yusuke Yoda
２．発表標題 A Spannning Approach to Quantifier in Classifier Languages
３．学会等名 ELSJ Spring Forum 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yusuke Yoda
２．発表標題 Domain Suspension Approach toward Locality within Morphological Domain
３．学会等名 International Congress of Linguist 20（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 依田　悠介
２．発表標題 タイ語と日本語の名詞の見方-数の数え方から認識へ-
３．学会等名 タイ国日本研究シンポジウム2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yusuke Yoda
２．発表標題 Domain of Suppletion: From Japanese Numeral
３．学会等名 WECOL 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yusuke Yoda
２．発表標題 Reflexives are Results of Impoverishment
３．学会等名 Linguistics and Asian Languages（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yoda, Yusuke
２．発表標題 Don't Misunderstand Main and Sub-effects: Which is Cause and Which is Effect
３．学会等名 Seoul International Conference on Generative Grammar（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考